

## 静けさに流されて

詞

作詞： ファジマリ  
作曲： ファジマリ

心配なんだ明日が  
空っぽの中に行くようで  
朝が来るとこの夢が  
終わっちゃうような気がして

何にも無いこの街の中で  
さまよいながら光を探した  
いつか出会えると思っていた

朝が来るその前に  
アイツに伝えたい事がある  
同じ夢を追いかけた  
その事だけは忘れない

その日暮らしを続けた中で  
輝いていたそんな日もあるよ  
そばに居てくれたおかげだよ

いつの間にか夜はふけて  
人波もうすくなる  
祭りが終わったその後の  
静けさに流されて  
静けさに流されて

つぶやき...

イメージして作った曲ですね。これは。

本人と彼女と友達と...

本人が街を出て行くところなんだけど、彼女は見送りに来てくれたって感じ。

彼女には感謝しています...その日暮らしを続けた中で輝いていたそんな日もあるよ そばに居てくれたおかげだよ...

アイツってのは仲の良い連れの事で...

最後のところ...「いつの間にか夜はふけて...」

祭りが終わって、夜がふけていきながら人が少しずつ減っていく...

そしてその後の 静けさ... 何も無かったかのように...

ボクは、この静けさが結構好きなんです。何か意味深って言うか...

感じるものがあるって言うか...

ただこのまま朝は来て欲しくないんだけど...

この曲、実はまんざらイメージしただけの曲ではなくて...

だいぶ前の事なんだけど、実際に街を離れていったことがあって、彼女ともこれをきっかけに別れちゃったんだよね。

アイツに対して「同じ夢を追いかけた」...ちょっと格好付けすぎ(誇張すぎ)だけど楽しいことを追いかけていたね。

冒頭の「心配なんだ...」ってのは、夢は夜ひらく じゃないけど朝が来ちゃうとこの夢が終わっちゃう。あるいは、前日の夜の楽しいひと時が終わっちゃう...現実に戻されちゃう...新しい一日への不安...って事を言いたかったよね。

祭りが終わったその朝なんてそんな感じじゃないかな...大きなイベントが終了しちゃって頭や心の中は空っぽみたいな...

え~まとめますと、

街を出て、明日からは今までとは違った人生を歩むため、彼女に別れを告げて、彼女から友達にも感謝を伝えてもらう様子...

その時の状況がまるで祭りが終わった後の静けさ(≡人生の中の一幕が終了)から明日を迎える不安な様子。もちろん期待もしているんだが...